

## 7月・8月・9月 Event Schedule

日付	イベント名	場所	時間
7月11日(日)	太宰府市民吹奏楽団「第6回 まほろばコンサート」	ミュージアムホール	①11:00~12:15 ②14:00~15:15(予定)
7月13日(火)~7月25日(日)	筑豊の近代化遺産展	エントランスホール	9:30~17:00
7月17日(土)	第3回ガムランワークショップ ※要申込(対象:小学生~高校生)無料	ミュージアムホール(予定)	13:30~15:30
7月24日(土)	きゅーはくミュージアムコンサート ~大草原に響く馬頭琴の調べ~	ミュージアムホール	①13:00~13:30 ②15:00~15:30
8月7日(土)~8月8日(日)	九博夏休みこども向けイベント「あじっぱ夏祭り」	ミュージアムホール	11:00~15:00
8月10日(火)~8月27日(金)	バー・ドライフ・アジア主催巡回写真展「藤原幸一・環境写真セレクション」	エントランスホール	9:30~17:00
8月21日(土)	エレキット夏休み工作教室in太宰府2010 ※要申込(対象:小学生)定員各回30名、参加料500円	研修室	①10:00~12:00 ②14:00~16:00 ③13:00~13:30 ④15:00~15:30
8月28日(土)	きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	①13:00~13:30 ②15:00~15:30
9月12日(日)	第16回九博朝日寄席 ※全席指定2500円(予定)	ミュージアムホール	13:00開場13:30開演
9月18日(土)	きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	①13:00~13:30 ②15:00~15:30

\*上記イベントは予定であり、予告無く変更する場合があります。詳細については、決まり次第ホームページでお知らせします。\*一部、有料のイベントがあります。

□

2011年4月から活動する第3期ボランティアの募集を行います。□

第3期ボランティアの募集人数は約250名、8月上旬より募集チラシを館内や県内各所で配布します。

募集の流れ

- 8月上旬  
募集チラシ  
配布
- 10月  
ボランティア活動説明会のち  
第3期ボランティア申込書提出  
(12月25日締切)
- 選考
- 研修
- 2011年4月  
活動開始 □



\*スケジュールは変更になる場合があります。[お問い合わせ先] 092-929-3294(交流課)

## Next Exhibition

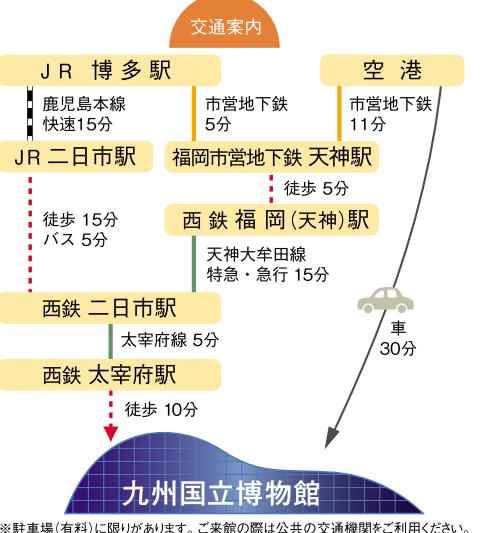
### 誕生! 中国文明

2010年10月5日(火)~11月28日(日)□

政治大国、そして今や経済大国としての地位を築く中国。その歴史は悠久かつ広大で一握にはつかみがたく、尽きない魅力にあふれています。□  
本展は、幻の初期王朝といわれた夏王朝から、隋・唐・宋王朝までのおよそ3000年間、歴代の名だたる王朝が都をおいた河南省が舞台です。漢字、金属器、陶磁器、書画、思想…。黄河に抱かれた当地では、移りゆく時代の中で、次々と文化芸術が誕生しました。□  
今も変貌を続ける中国はまさに誕生の連続。その核心を5周年を迎えた秋の九州国立博物館でご紹介いたします。□



動物紋飾板  
偃師市二里頭VI区11号墓出土  
夏・前17世紀~前16世紀  
洛陽博物館蔵



※駐車場(有料)に限りがあります。ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。



○開館時間 □ 9:30~17:00(入館は16:30まで)□

○休館日 □ 月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌日休館)□

○文化交流展観覧料(特別展は別料金)□一般: 420円(210円)大学生: 130円(70円)□

○特別展「馬 アジアに駆けた二千年」観覧料 □

一般: 1,300円(1,100円)高校生: 大学生: 1,000円(800円)小学生・中学生: 600円(400円)□

○太宰府天満宮 & 九州国立博物館共通チケット □500円 □

\*( )内は前売りおよび20名以上の団体料金\*障がい者とその介護者1名は無料。展示室入口にて障害者手帳等をご提示ください。

\*高校生以下及び18歳未満、70歳以上の方は、文化交流展示については無料。4階展示室入口にて年齢の分かれるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。\*特別展の観覧料で、文化交流展もご覧いただけます。\*満65歳以上の方は、特別展については( )内料金でご入場いただけます。チケット購入の際に年齢の分かれるもの(健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。キャンパスメンバーズの方は、特別展については( )内料金でご入場いただけます。チケット購入の際に学生証、教職員証等をご提示ください。\*特別展「馬 アジアに駆けた二千年」の開催期間は平成22年7/13(火)~9/5(日)です。□

\*太宰府天満宮 & 九州国立博物館共通チケットでは「太宰府天満宮宝物殿」「菅公歴史館」「九州国立博物館文化交流展示室」がご覧いただけます。□



〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2

NTTハローダイヤル

ご案内 050-5542-8600

オペレーター対応、通話料発生。案内時間8:00~22:00

九州国立博物館

検索 <http://www.kyuhaku.jp>



ASIAge  
九州国立博物館 季刊情報誌 ASIAge

ASIAge  
九州国立博物館 季刊情報誌 ASIAge  
九州国立博物館

vol17  
2010 SUMMER

季刊情報誌  
アシアージュ  
九州国立博物館

九州国立博物館  
開館5周年記念  
特別展

The Drama of  
Man and Horse:  
The Golden Legacy of  
2000 Years  
in Asia



アジアを駆けた二千年

7月13日(火)~9月5日(日)

馬形器  
伝韓国慶尚南道昌寧出土  
加耶時代・6世紀  
東京国立博物館蔵





# 九州国立博物館開館5周年記念特別展 7月13日(火)~9月5日(日) アジアを駆けた二千年

馬はものを運んだり、  
私たちを遠くまで連れて行ってくれたり、  
時には勇敢に争いのなかに飛び込んでくれました。  
競馬も私たちに興奮と楽しさを教えてくれました。  
今回のテーマは「馬」馬博士とアシスタントのマコちゃんが、  
人と馬の歴史をたどります。



ヒラコテリウム復元模型  
馬の博物館蔵

これが馬の祖先!? 今とずいぶん違うね。

馬骨  
大阪府都屋北遺跡出土 古墳時代・5世紀  
大阪府教育委員会蔵

最初は小さかったんだね。

日本初公開  
奏楽騎馬俑  
中国陝西省咸陽市平陵1号墓出土  
十六国時代・4・5世紀  
咸陽市文物考古研究所蔵

約130cm

**馬だって祖先がいました。**  
人間がこの地に出現するずっと以前の5400年前。馬たちの祖先は、北アメリカやヨーロッパに現われ、ヒラコテリウムといわれてきました。

**人は馬と出会ったのは、いつ頃?**   
日本で最初に馬が登場したのは、今から1600年ほど前、百濟の王から2匹の馬が献上されたことが起源と言われています。



**神馬の誕生。**  
日本での古式競馬は、701年(大宝元年)端午の節句に朝廷の儀式として競馬が行なわれたのがはじまりとされています。1093年(寛治7年)には、京都上賀茂神社で神事としての競馬が催されました。馬は神にささげる神馬となってその後も受け継がれて行きました。



展示期間  
7月13日(火)~8月8日(日)

国宝 鞍  
奈良県藤ノ木古墳出土  
古墳時代・6世紀 文化庁蔵  
展示期間 7月13日(火)~8月13日(金)  
写真提供 / 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館



\*天候その他のやむを得ぬ事情により、イベントを中止または変更する場合があります。

★けいばの広場  
■日程 / 7月13日(火)~9月5日(日) ■時間 / 9:30~17:00  
■会場 / エントランスホール・一部屋外

★ポニーとのふれあいイベント  
■日程 / 7月17日(土)~18日(日)~19日(月・祝)~24日(土)~25日(日)  
29日(木)~31日(土)~8月1日(日)~5日(木)~7日(土)~8日(日)  
12日(木)~14日(土)~15日(日)~19日(木)~21日(土)~22日(日)  
26日(木)~28日(土)~29日(日)~9月4日(土)~5日(日)  
■時間 / 10:30~15:30 ■会場 / レストラン前広場(屋外)

★ワークショップ「馬のスケッチ大会」  
■日程 / 7月17日(土)~18日(日)~24日(土)~25日(日)~31日(土)  
8月1日(日)~7日(土)~8日(日)  
■時間 / 10:30~  
■会場 / レストラン前広場(屋外) ■定員 / 各回30名 \*雨天中止

★ワークショップ  
「馬のくつ(蹄鉄)でコースターを作ってみよう」  
■日程 / 7月29日(木)~8月5日(木)~12日(木)~19日(木)~26日(木)  
■時間 / ①10:00~②12:00~③14:00~④16:00~  
■会場 / エントランスホール ■定員 / 各回定員15名 \*先着順

★ミュージアム「馬」セミナー  
楠瀬 良氏(JRA競走馬総合研究所 次長)  
「日本人と馬」  
■日程 / 7月25日(日) ■時間 / 14:00~15:00  
■会場 / ミュージアムホール ■定員 / 280名 \*事前申込み不要

石田 信繁氏(JRA競走馬総合研究所 上席調査役)  
「馬の進化と日本在来馬のルーツ」  
■日程 / 8月1日(日) ■時間 / 14:00~15:00  
■会場 / ミュージアムホール ■定員 / 280名 \*事前申込み不要

★シンポジウム「藤ノ木古墳の馬具」  
■日程 / 7月18日(日) ■時間 / 13:00~15:00  
■会場 / ミュージアムホール ■定員 / 280名 \*要申込  
■基調講演  
千賀 久氏(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館主幹)  
「藤ノ木古墳の金銅製馬具」  
赤司 善彦(九州国立博物館展示課長)  
「藤ノ木古墳にみるデザインの系譜」  
■パネルディスカッション  
司 会 / 河野一隆(九州国立博物館企画課)  
パネリスト / 鈴木 勉氏(工芸文化研究所理事長)  
千賀 久氏・赤司 善彦

★講演会  
■日程 / 7月31日(土) ■時間 / 13:00~15:30  
■会場 / ミュージアムホール ■定員 / 280名 \*要申込  
木崎 真澄氏(馬の博物館理事)  
「日本の馬文化 -人と馬の歴史から-」  
川嶋 舟氏(東京農業大学農学部講師)  
「九州の在来馬」

上記のシンポジウム・講演会は事前申込が必要です。  
(申し込み方法) 往復はがきの「往信用裏面」にシンポジウム・講演会名、郵便番号、住所、氏名、電話番号、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記の上、下記先までお申し込み下さい。(往復はがき1枚につき1イベント・1名でのお申し込みとなります。先着順に締め切ります。聴講券の発送(返送)は各イベント開催の約1週間前を予定しております。)

往復はがきの「往信用裏面」にシンポジウム・講演会名、郵便番号、住所、氏名、電話番号、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記の上、下記先までお申し込み下さい。(往復はがき1枚につき1イベント・1名でのお申し込みとなります。先着順に締め切ります。聴講券の発送(返送)は各イベント開催の約1週間前を予定しております。)

〒810-0001福岡市中央区天神1-4-1  
西日本新聞イベントサービス内  
「馬 アジアを駆けた二千年」係

シンポジウム・講演会に関するお問い合わせ  
西日本新聞イベントサービス内  
「馬 アジアを駆けた二千年」係  
【電話】092-711-5491(平日10:00~17:00)

# PICK UP文化交流展示室

文化交流の歴史の中で日本の文化がどのように形成されたかを、約1,000件の文化財で紹介。ここではその一部を紹介します。



II 稲づくりから国づくり□

関連展示第4室□ にぎやかな古墳のまつり□

古墳を飾る土と石の造形。埴輪と石人。古墳の外側に立てられたこれらの像は、当時の風景を今に伝えている。家・人・馬などの様々な埴輪が織りなす息づかいを感じてみませんか。□

文化交流展示室では頻繁に展示替えを行っています。作品の展示期間については、当館ホームページでお確かめください。

## トピック展示スケジュール□

トピック展示名称□	開催期間□	開催場所□
茶の湯を楽しむIII 名品でたどる室町から桃山の茶	9月14日(火)~11月7日(日)	関連展示第9室
九州国立博物館の開館5周年のあゆみ	9月28日(火)~12月24日(金)	基本展示室アプローチ付近
能面と能装束	10月27日(水)~12月5日(日)	関連展示第11室
螺鈿 美しき貝と漆の芸術	11月10日(水)~2011年1月16日(日)	関連展示第9室
邪馬台国 九州 vs 近畿(仮称)	2011年1月1日(土・祝)~2月20日(日)	関連展示第3室
田中丸コレクション(仮称)	2011年1月19日(水)~3月27日(日)	関連展示第9室
日本の建築をめぐって	2011年1月21日(金)~4月3日(日)	関連展示第11室

# 九博学芸員に聞く!「トピック展示」鑑賞

トピック展示とは…「文化交流展示室」の関連展示室の一室を使い、テーマに沿った展示を定期的に行っています。

開催中  
9月5日(日)  
まで



Part 1

## 九州国立博物館開館5周年・滋賀県立琵琶湖文化館開館50周年記念 -最澄がつないだ近江と太宰府- 湖の国の名宝展□

近江は琵琶湖を中心に広がる豊かな地域で、古代から文化・経済の先進地でした。琵琶湖のほとりに聳える比叡山からは、日本仏教の主要な宗派の開祖たちが巣立ち、まさに我が国の仏教文化の中心でもありました。このため、滋賀県には仏教美術を中心に数多くの文化財が伝えられ、国指定文化財件数では全国4位にのぼります。□

その近江と太宰府は、いにしえより深い繋がりがありました。入唐前の最澄は一年あまりを太宰府で過ごし、円仁・円珍も太宰府を訪れていました。また、神仏分離以前の太宰府天満宮も天台宗の寺院という面を合わせ持っていました。□

滋賀県で最初の公立博物館である滋賀県立琵琶湖文化館は、今年、開館50周年という節目の年を迎えました。半世紀もの長い実績と所蔵品・寄託品の質の高さは全国有数です。琵琶湖文化館の所蔵品・寄託品から国宝3件、重要文化財33件、滋賀県指定文化財17件という優品を選びすぐった展覧会をゆかりの地太宰府で開催します。□



国宝□  
華籠 平安～鎌倉時代 神照寺蔵□



重要文化財□  
薬師如来立像□  
奈良時代 聖衆來迎寺蔵□



琵琶湖図(部分)□  
湖岸を行く朝鮮通信使□  
丹山応震筆□  
江戸時代 滋賀県立琵琶湖文化館蔵□  
[展示期間] 7月27日(火)～8月15日(日)□

### 講演会 (場所)ミュージアムホール / 当日参加受付

「最澄がつないだ近江と太宰府」□	「近江の仏教美術」□
〔日時〕7月4日(日)13:30～16:15	〔日時〕7月10日(土)13:30～16:25
〔講師〕	〔講師〕
菅田 玄光氏(比叡山延暦寺副執行)□	土井 通弘氏(就実大学教授)□
八尋 和泉氏(元別府大学文学部教授)□	上野 良信氏(滋賀県立琵琶湖文化館)□
宮本 忠雄氏(元滋賀県立琵琶湖文化館長)□	井上 ひろ美氏(滋賀県立琵琶湖文化館)□
□	藤田 励夫(九州国立博物館)□
□	□
□	□
□	□

9月15日(水)～  
10月24日(日)  
まで



Part 2

## 館蔵仏教美術名品展□

仏教は紀元前のインドで生まれ、中国、朝鮮半島を経て6世紀の日本に伝えされました。そして日本古来の思想や文化と結びつきながら、やがて独自の形で定着しました。それにともなって生み出されたのが、仏像や仏画といった仏教を主題とする美術、つまり仏教美術でした。難解な仏教を視覚的に分かりやすく伝える仏教美術は人々の求めるところとなり、中世以前の日本美術の歴史は仏教美術の歴史と言っても過言ではないほどに発展しました。□

本展では、当館所蔵品のなかから重要文化財4件を含む10件の仏教美術の優品をご紹介します。金色に輝く阿弥陀の浄土を描いた「浄土曼荼羅図」や、女性の死体が朽ちていく過程を描いた「九相図」など、一口に仏教美術といっても多彩です。美しいばかりではなく、ときには不快感さえ抱くような作品も混在する仏教美術の世界。しかし、そのいずれもが篤い信仰に根ざしています。この機会にぜひ、人々の信仰の結晶とも言うべき仏教美術の名品をご堪能ください。□



重要文化財□  
浄土曼荼羅図(部分)□  
鎌倉時代 九州国立博物館蔵□



重要文化財□  
九相図 鎌倉時代九州国立博物館蔵□



重要文化財

ならさんさいつぼ

# 奈良三彩壺

奈良時代・8世紀 九州国立博物館蔵

展示期間

平成23年4月10(日)まで

展示場所

九州国立博物館4階 文化交流展示室 基本展示室 第IIIテーマ

色 美しい色に魅せられて

中国の唐の時代、三彩という華やかな焼物が生まれました。この唐三彩が7世紀末に遣唐使によって日本にもたらされると、その美しさによってたちまち多くの人が魅了されました。「こんな美しい焼物を作りたい」当時、既に朝鮮半島から緑色の焼物を作る技は伝わっていました。鉛を原料とする釉薬を銅を加えて緑色を出す技に、鉄を加えて褐色を表す技、そして白抜きと合わせて三色に塗り分ける技とを組み合わせ、日本の三彩である「奈良三彩」は生まれました。



用 使い勝手は日本スタイル

唐三彩は「明器」と言って、偉い人のお墓と一緒に埋めるためのものでした。ところが日本で作られる奈良三彩は形も日本独特ならば、使い方も日本のスタイル。例えばこの壺のようなものでは、藏骨器と言って、火葬した骨を入れる器として使われていました。この他、奈良のお寺の遺跡から出土したものなどでは、仏教の儀式で使う花器などが作られています。

形 日本オリジナルの形

## 奈良三彩のルーツは、唐三彩。



の違いを鑑賞せよ。

唐三彩を手本として作られた奈良三彩。ところがお手本となった唐三彩と同じ形のものはほとんどありません。

例えば壺では、唐三彩の壺に万年壺と呼ばれるものがあります。全体にゆったりと丸みを帯びた形です。ところが奈良三彩の壺では、唐三彩の形

よりも同じ時代の須恵器の壺に近い形をしています。奈良三彩を作った人たちにとっては、唐三彩の形よりも、その鮮やかな色彩に強くひかれていたのでしょう。



唐三彩万年壺

中国・唐時代 8世紀 文化庁蔵

展示期間

平成23年4月10(日)まで

教えて!  
学芸員さん!

用語辞典

## 三彩【さんさい】

「三彩なのに、三色じゃないの?」ということを聞かれことがあります。確かに、もっともな疑問です。この場合の「三彩」という言葉は、焼物の作り方から生まれた用語です。素地の上に直接色彩の異なる釉薬を掛けて、多色の焼物を作るものを「三彩」といいます。唐三彩では四色のものもありますし、藍と白だけのものもありますが、すべて三彩と言います。ところが日本では、奈良三彩の中で最も色彩が多くても三色であったために、次第に色彩が減ってくことで、二彩という言い方も出てきました。

ちなみに、釉薬を掛けて一端焼いたものの上から彩色をして焼き付けた上絵によるものは、「色絵」と言い、中国では「五彩」と呼んでいます。

SHOPPING

うちわに風鈴、Tシャツ、そうめんなど  
夏グッズが勢揃い!小判型うちわ  
(收藏品柄4種)  
1,050円(税込)和三宝  
840円(税込)

九州国立博物館ミュージアムショップ TEL.092-918-8818【ショップ直通】

FOOD



龍馬御膳 2,100円



5周年記念ランチ 2,500円

温泉玉子西京漬(京都)、蒸大根あちゃん漬(鹿児島・指宿)、若鶏文化大砲巻(長崎・野崎島)等、時代を駆け抜けた坂本龍馬をイメージした龍馬御膳をどうぞ。また、この夏に特におすすめする、冷製スープが楽しめる魚と肉の盛り合わせのスペシャルランチをどうぞ。

オープンカフェでは、くず饅頭(400円)やコーヒークラッシュ(500円)など、夏の涼味をご用意しました。

レストラン・グリーンハウス TEL.092-918-7822

VOLUNTEER VOICE

「これは見逃せない」と  
何度も九博に来てもらいたいです。

七夕イベントでは浴衣を着て登場するなどイベントのサポートで総勢12人の学生が活躍する学生部会。館や特別展の案内役の人形、ハニワ三銃士のパペット劇もお客様にじみじみになりました。今回の特別展は馬がテーマとあって、パペットの可愛い馬トニーを作りました。新しいシナリオを書くにあたって、皆でアイディアフラッシュ。ついで、さまざまシーンを撮影し、

イベントのお問い合わせ  
NTTハローダイヤル 050-5542-8600  
オペレーター対応。通話料発生。案内時間 / 8:00 ~ 22:00



**体験型展示室**

## あじっぱ 体験記

### BOXキット篇

「あじっぱ」は五感をつかって体験型の展示室。日本と交流のあつたアジアやヨーロッパ諸国の衣装や生活雑貨、おもちゃなどがズラリ。みて、きいて、かいで、さわって、いろいろな体験をしてみよう! 今回は「BOXキット」で遊んで来たよ。

「遺唐使すごろく」に挑戦!

「つつむ」に挑戦!

「ぬりえ」に挑戦!

ほかにもパズルや  
ひもむすびなど  
様々なアジアの文化  
を体験できます。  
親子で一緒に楽しもう。

ベトナムの版画の  
デザインに自由に色々  
世界に一つだけの品が完成!